



FAS住まい新聞

発行責任者
㈱福地建装
北斗市中野通 324
Tel 0138-73-5558
fax 0138-73-8460

◇ 梅雨入り ◇

気象庁のデータでは、平年6月初めに九州で梅雨入りとなり、徐々に北上して東北北部は6月中旬に梅雨入りとなります。

平年のデータによると梅雨明けが7月中～7月末頃で、昨年は北陸・東北地域を除く地域では7月の初めに梅雨明けとなりました。また北陸・東北地域ではこの梅雨が8月の初めまで続きました。

梅雨期は大雨による災害の発生しやすい時期です。また、梅雨明け後の盛夏期に必要な農業用の水等を蓄える重要な時期でもあります。

一方、梅雨期は曇りや雨の日が多くなって、日々の生活等にも様々な影響を与えることから、住環境においても充分な注意と対策が必要となります。

◇ 梅雨時期が快適な生物 ◇

外気の湿度が70%を超える多湿状態が続くと私達人間にとっては、本当に不快な季節ですが、このような環境を好む生物も住宅内には潜んでいます。

ダニは、湿度70%以上、室温20～25℃といった環境を好み、梅雨は活発的に活動している時期です。

カビ菌も同様で、湿度65%以上、室温20～25℃といった環境を好みます。特に梅雨時期は窓を開ける事ができず、部屋を閉め切ったままにしておく事が多くなると思いますが、その閉め切った環境もダニ、カビ菌には好都合であり、繁殖の原因となります。

近年は、安易に気密性が高めた住宅が多くなってきている事からダニ、カビ菌の繁殖しやすい環境になっており、ダニ・カビ菌はアレルギーなどの原因となるアレル物質の代表ですので、注意・対策が必要となります。

◇ ダニ・カビを繁殖させない方法 ◇

ダニ、カビ、そして腐朽菌そのものを繁殖させない為には、湿気を高くしない事と、常に動く空気に触れさせ続ける事です。

梅雨時期において湿気を高くしない事は、とても難しい事です。一般の住宅では、換気によって入れ替えた外気の湿度によって室内の湿気を高めてしまう可能性が高くなります。

対策としては、低温部分をつくらない工夫をすることです。室内の低温部分には、湿気が凝縮して家具・寝具・衣類などの含水量が多くなっており、特にカビ菌の対策については有効的です。

動く空気に触れさせる事は、家具の下部に、板などのスペーサーを入れ、少し持ち上げる事によって温度差で空気が動きます。

押入れについてもスノコなどを設置する事で、空気が動き、高温部分と低温部分の温度差によって自然に空気が動くようになります。

このような昔からある工夫によって室内に空気が停滞する部分を作らないことができます。

◇ 湿度管理は「ファースの家」 ◇

「ファースの家」は、湿気を入れないための機能を持った断熱・気密材と施工法です。更に土台や柱・壁の中まで動く空気に触れさせる構造や一定の低温部分をつくらない構造になるよう様々な知恵と工夫が行われており、湿度管理ができる住宅です。

ファース本部では、腐らない家・長持ちする家・健康で快適な家をつくる事がコンセプトとなって研究開発を行っており、加盟工務店に機能・技術を提供しております。

新築に限らず、リフォームにおいてもこのような機能・技術を使い、梅雨時期でも快適に過ごす事が可能となります。

(著 藤木幸太)

幸太の知恵袋

家具選びは雨の日に

家具を選ぶなら、晴れた日の休日に出かけようかな？という気分になるよね。でも実は大きな間違いで「家具選びは雨の日に限る」んだよ！もともと家具は欠陥が少ない商品で、表面の傷や汚れ以外は気にせずに買ってしまいがちだよ。しかし、引き出しや扉に「遊び」がないかどうかは、晴れの日より、雨の日の方がわかりやすいんだよ。木材は、湿気によってしなったり、木目がねじれるから、引き出しや扉があまりにもびったりとしていると、雨の日になると開きにくくなったりするんだ。そこで、家具を選ぶなら雨の日が良いという訳なんだよ。

建築情報や知識は、ファース本部公式サイトで！



ファースの家

検索

